

令和2年度厚木市公共下水道事業決算の概要

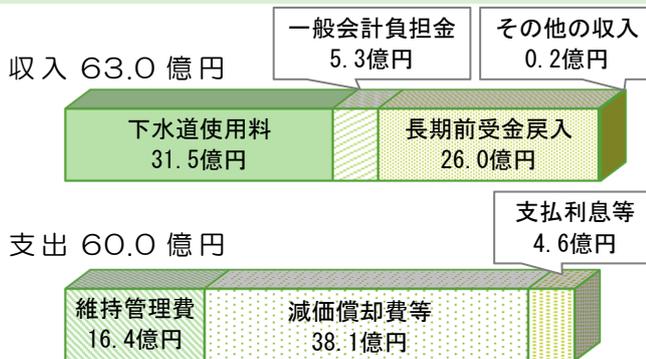
令和2年度から公営企業会計による会計処理を行っています。令和2年度は、大雨による浸水被害を軽減するための雨水管・雨水貯留管の整備工事、污水管や災害用トイレの整備工事、古くなった管渠の改築工事等を実施しました。

1 業績ハイライト（前年度比較増減）

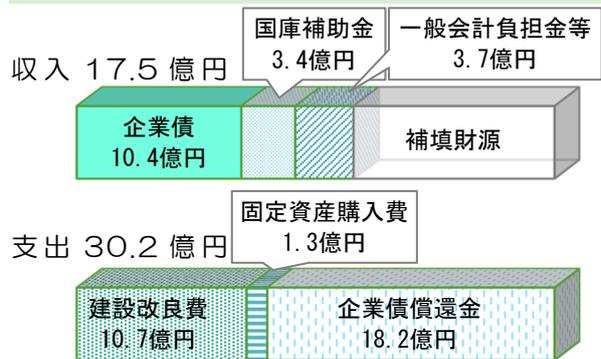
有収水量	2,595万 ^m ³	(▲35万 ^m ³)	処理区域内人口一人当たり355.6ℓ/日
維持管理費	15.1億円	(———)	管渠費、流域下水道負担金など（税抜）
投資額	12.0億円	(———)	管渠建設費、管渠改良費など（税込）
収益	60.1億円	(———)	下水道使用料、一般会計負担金など
費用	57.7億円	(———)	維持管理費、企業債利息など
当年度純利益	2.4億円	(———)	企業会計移行初年度で純利益計上

2 収支の状況

収益的収入及び支出（税込）

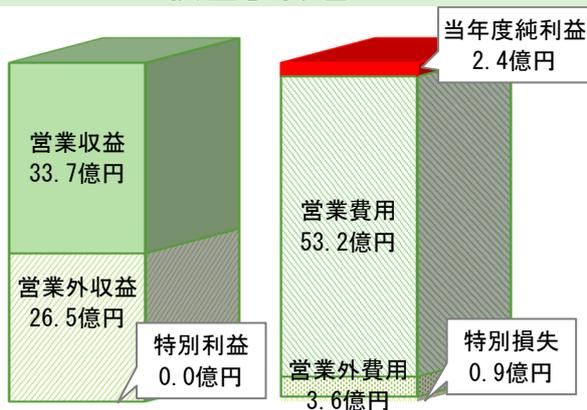


資本的収入及び支出（税込）

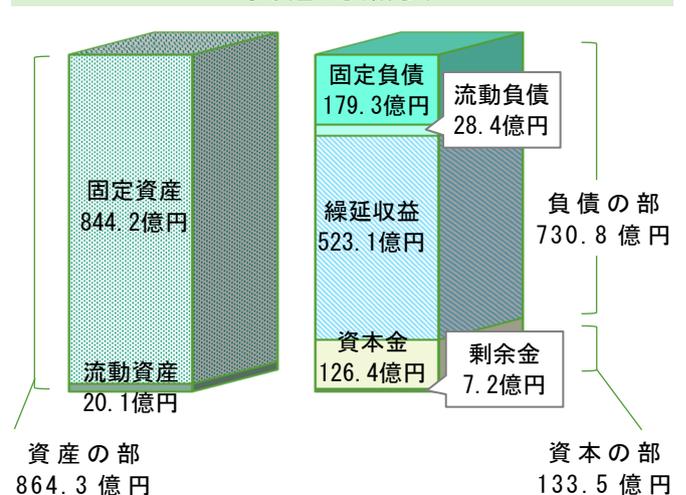


3 財務諸表

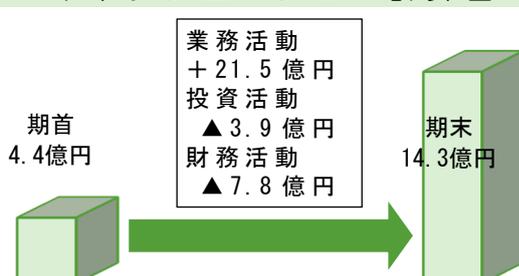
損益計算書



貸借対照表



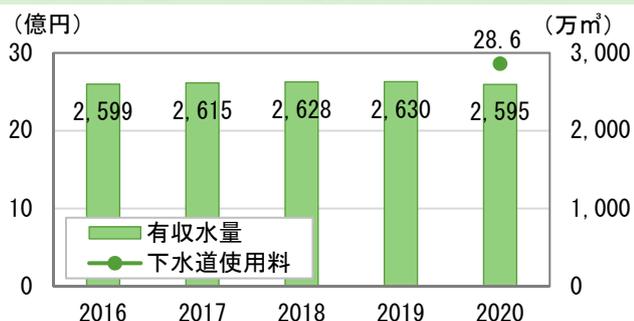
キャッシュ・フロー計算書



注) 各数値を四捨五入しているため、合計額等と一致しない場合があります。

4 経営指標等の推移

有収水量と下水道使用料（収益）



新型コロナウイルス感染症対策に係る事業活動の縮小により、有収水量は前年度より35万m³減少しました。

一般会計からの繰入額



総務省が定めた基準に基づいて、一般会計から繰り入れています。令和2年度は、8.9億円を一般会計負担金として繰り入れました。

使用料単価



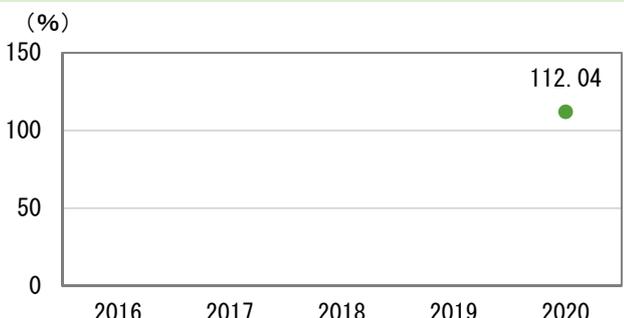
有収水量1m³当たり、110.3円の下水道使用料収益を得ています。

汚水処理原価



有収水量1m³当たり、98.4円の処理費用がかかったことを示します。厚木市は流域下水道に接続しているため、比較的lowコストとなっています。

経費回収率



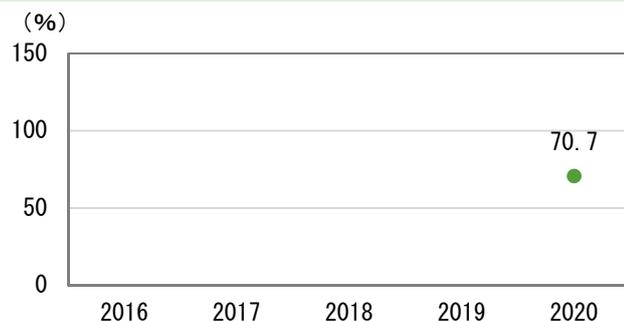
100%以上を達成し、必要な汚水処理費用を下水道使用料で賄うことができました。

経常収支比率



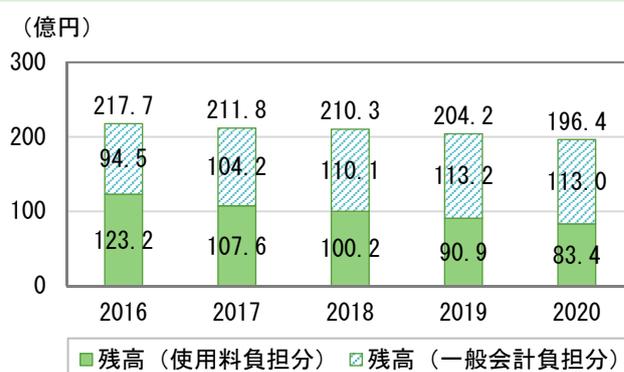
経常収益が経常費用を上回り、単年度収支が黒字であることを示す100%以上となりました。

流動比率



一般的に必要とされる100%を下回りましたが、流動負債の大部分は翌年度に償還する企業債であり、翌年度収入を財源として確保できているため、支払能力に支障はありません。

企業債残高



汚水管を整備していた時期の企業債の償還が進んでおり、企業債残高は7.8億円減少しました。